



大学と地域歴史文化 : 大阪市立大学日本史研究室の 取組み(第2部報告)

塚田, 孝

(Citation)

地域歴史文化の育成支援拠点としての国公立大学 : 地域歴史遺産の保全・活用と防災, 平成23年度特別研究プロジェクト 国公立大学フォーラム:43-49

(Issue Date)

2011-12-11

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81003727>



はじめに

◎大阪市立大学と和泉市の包括連携

大学の地域貢献とは？

1、和泉市の地域史との関り

◎黒鳥村史料調査

河野家文書の近世史料から町内の悉皆調査へ

浅井家文書（町田哲氏の研究）

◎和泉市史

補遺の依頼から新しい市史づくりへ

編纂大綱の議論（本編・資料編 ⇒ 地域叙述編 5 冊・テーマ叙述編・コンパクト通史）

・生活構築の歴史

・（研究に基づく）市史づくりと史料調査・保存は車の両輪

◎合同調査

大阪市立大学日本史研究室としての取組み

ねらい（教育的側面、地域の包括性）

地域との合同という理解へ

（2009 年－納花町〈9・28～30〉／2010 年－富秋町〈9/28～30〉

／2012 年－尾井町〈9/7～9〉）

2、地域史の模索と意味

◎『和泉市の歴史』…現在、地域叙述編 3 冊刊行

『横山と槇尾山の歴史』…寺院社会の展開を軸に

『松尾谷の歴史と松尾寺』…寺院社会との展開と山をめぐる関係

『池田谷の歴史と開発』…村落社会の展開と《山と川と開発》（主軸と副軸）

◎地域と世界（地域史の普遍性）

マーレン・エーラスさんの経験…世界－日本－大野（地域の普遍性）

「雪国留学」と「地域史惣寄合に参加して」

おわりに

日本の近世史料は世界的に稀有な豊かさ…地域史の可能性と大学・文化行政の責任

マーレン・エーラス「雪国留学」 (『クゴジリア』2008 夏号)

同 「地域史惣寄合に参加して」 (『地域史の現在』2010 年 2 月)

「雪国留学」

- ・会う人の反応
- ・大野への接近の特異性
- ・大野の今と過去・・・そのとまどい
- ・地域の変化と個人の一生／この 1 年でも
- ・初来日時日本の印象
- ・福井・大野の印象（自分の／地域の人）・・・喪失の危機感
- ・故郷のこと・・・大野との共通の印象
- ・今回に印象、特に雪

「地域史惣寄合に参加して」

- ・1 日目の印象・・・自治体史
- ・2 日目の印象・・・地域史の内と外
- ・外国人研究者にとっての地域史
- ・オリエンタリズム
- ・自分の研究の意味
- ・故郷を離れて
- ・故郷を思う
- ・今だからこそ
- ・自分の研究
- ・「日本」の「本質」
- ・時代の文脈・地域の文脈
- ・人類の歴史として
- ・日本・大野の「余所者」でなくなっている自分
- ・「昔や今生きている人間の輪」として

マーレンさんのエッセイは“歴史を考えること／歴史学の意義”を考える最適の手がかり
以後、自分の経験から少し（何回か）考える

市大日本史研究室と和泉市教育委員会の合同調査

*合同調査とは…

市大文学部の歴史学教室の行事は、遠足や旅行などたくさんありますが、日本史研究室にとって一年で最も大きな行事は、毎夏和泉市で実施する和泉市教育委員会との「合同調査」です。合同調査は二泊三日の合宿形式で行い、専攻する時代・分野を問わず、ほぼ全ての学生（二〜四回生）と院生、先生方が参加します。他大学やOB・OGで参加する人もいるため、参加者総数は七〇名ほどにも及ぶ、たいへん大規模な調査です。方法がともユニークであるため、全国的にもかなり注目されているそうです。

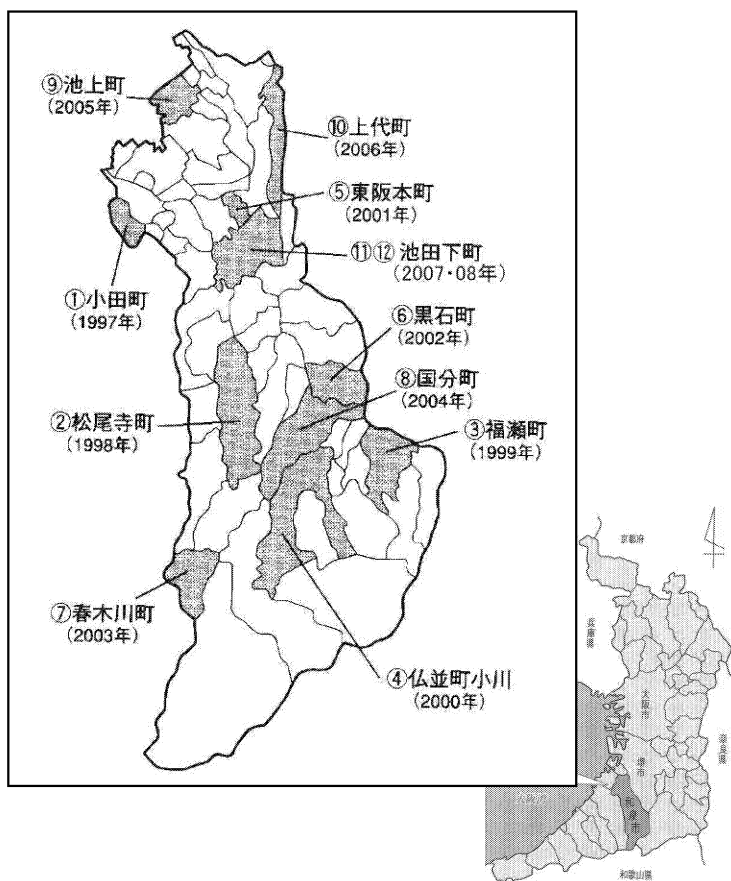
調査を中心になって組織するのは、学生・院生・先生・和泉市教育委員会（市史編さん事務局）のメンバー一五名ほどからなる実行委員会です。毎年五月初めに立ち上げ、会議を重ねて調査計画を立てます。実行委員会は、調査三日間で終わるのではなく、事後に報告書を作成し、次年度五月刊行の雑誌『市大日本史』に掲載するまで、ほぼ一年のあいだ取り組みを継続します。以下、この合同調査について紹介しましょう。

合同調査では、和泉市内の町会から対象地域を選び、一つの地域（町会）を歴史学の方法に基づいて色々な角度から調査します。具体的には、地域に残された古文書の調査、地元のお年寄や町会役員の方からの地域生活や地域運営に関する聞き取り調査、水路や古い

参考：これまでの合同調

本

	調査地	日程	参加数
① 1997年	小田町	7/30～8/1	市大55人 和泉市4人
② 1998年	松尾寺町	8/19～21	市大44人 和泉市3人
③ 1999年	福瀬町	7/28～30	市大など67人 和泉市4人
④ 2000年	仏並町小川	7/30～8/1	市大など57人・和泉市8人・建築グループ12人
⑤ 2001年	東阪本町	7/31～8/2	市大など48人 和泉市5人
⑥ 2002年	黒石町	7/30～8/1	市大など45人 和泉市7人
⑦ 2003年	春木川町	7/31～8/2	市大など45人 和泉市7人
⑧ 2004年	国分町	7/30～8/1	市大など51人 和泉市9人
⑨ 2005年	池上町	7/31～8/1	市大など52人 和泉市9人
⑩ 2006年	上代町	8/8～10	市大など51人 和泉市8人
⑪ 2007年	池田下町泉財	8/4～6	市大など54人 和泉市6人
⑫ 2008年	池田下町 中村・久保出・願成・山深	8/2～4	市大など63人 和泉市4人





↑ 調査風景（史料調査をしています）



↑ 調査風景（フィールドワーク中）

石造物、景観に注目しながら実際に地域を歩いて回るフィールドワーク、墓石や石碑に書かれた文字を記録に残す**拓本調査**など、多様な調査を行ってきました。こうした様々な調査ができるのは、ただ調査方法自体が多様にあるからそれらを駆使するという理由のみならず、調査対象となる「地域」そのものの中には、重層的で豊かな人々の生活痕跡がたくさん残されており、そういった個性的なあり様を持つ各々の地域であればこそ、色々な調査を行うことが意味を持つのだという点が重要だと思います。

*どんな調査をしているのか：

現在の和泉市の「町会」は、戦後宅地化された新しい町を除いて、**ほぼ江戸時代の「村」の範囲が引き継がれてきています。**そのため、庄屋をしていた古い家の蔵などに、村の様子を詳細に記した古文書が現存していたり、近代以降の戸長文書・町会史料などが豊富に残されていたりします。ときには中世文書が伝来しているお宅もあります。一つの「地域」に残されてきた全ての古文書をその地域に即して研究することにより、**地域における歴史の展開を、「古代・中世・近世」という中央の政治史による時代区分で輪切りにすることなく、人々がどのように暮らしてきたのかという点から通時代的に、精緻に検証できるのです。**合同調査では、こうした古文書の調査を、古文書のまとまりそのものがどのように地域に残されてきたのか？という視点を重視して“**現状記録調査法**”という調査方法を用い、一点ずつ詳細に記録をとっていきます。

合同調査で調査した古文書は、**後期の授業で教材に使われ、調査後もさらなる読み込みを進めます。**合同調査の三日間では古文書に書かれていること全ては分析できないのですが、授業を通してだんだんと理解が深まっていきます。学部時代の合同調査は、本物の古文書に触れることができるまたとない機会であり、またその古文書が残されている地域で史料調査を行うという、たいへん稀有な経験をさせてもらえる場として、私自身、毎年とても楽しみに参加していました。特に、二回生時の合同調査で調査した山間村落の古文書は、

後期の授業で同級生と共にグループ報告を重ね、報告書にも史料紹介を書くという小さな“共同研究”を体験させてもらいました。そして四回生の時には、もう少し研究を深めたいと思い、この村の古文書を卒論の素材にしました。

また、聞き取り調査についてもユニークな点があります。近年、聞き取り調査は“オーラル・ヒストリー”と呼ばれ、歴史学の重要な方法の一つとして注目されるようになりました。聞き取り調査は、一般的には個人の経験・記憶を記録する方法として用いられてきましたが、合同調査ではこうした点を踏まえつつ、さらに“**地域における人々の暮らし・地域のあり様・地域運営**”を記録するという点をより意識しています。ふだん聞き取り調査に慣れていない学生や院



↑ 調査風景（聞き取り調査をしています）

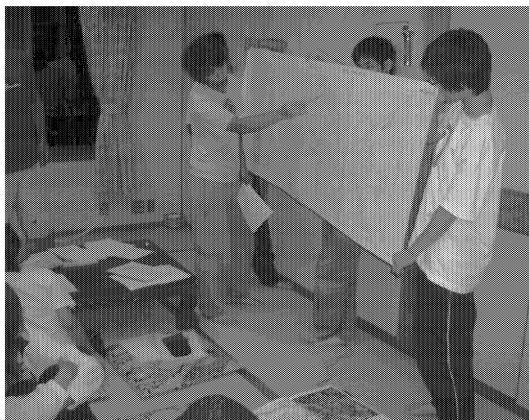
生にとっては、何を聞いていいのか分からず難しい部分もありますが、私達の祖父母と同世代にあたる方々からお話を聞くことにより、私達の世代と過去の社会とのつながりを考える良い機会にもなるかと思っています。

こうした古文書・聞き取り調査に加えて、フィールドワークで現地を実際に歩き、それらを全て相互連関的に把

握することによって、地域のあり様を立体的に把握できるようになります。ただし、地域の状況によって調査方法自体にもかなりの工夫が必要です。実行委員会では毎年どのような調査を行うのか、熱い議論を重ねています。そのような中で、合同調査を“**地域の現状記録**”と位置づける意義や、大学と市教委との合同と考えるだけでなく、“**地域との合同調査**”でもあると自覚するようになるなど、あらたな意義・意味が見出されてきました。

* 今年の調査を控えて

さて昨年は、池田下町の四町会（中村・久保出・願成・山深）を対象に、八月二日～四日までの日程で合同調査を行いました。とて



↑ 宿舎でのミーティング風景

もたくさん史料調査や聞き取りを行うとともに、水路調査や拓本調査なども行いました（写真参照）。

今年は九月末の二八日～三〇日にかけて、**和泉市内納花町**で合同調査を行う予定です。現在はそれに向けて、調査計画を立てたり調査地である納花町の町会との話し合い、当地域の古代

近代までの歴史を事前に調べたりといった、当日の調査をより充実かつ円滑に進めるための準備をしている最中です。オーブンキャンプスには、調査経験の豊富な学生・院生が集まっていますので、直接色々聞いてみてください。

歴史を学ぶ中での一番の醍醐味は、本やテレビに流れる「歴史像」を通じて間接的に歴史を知ることや、歴史上に名を残す有名人物についてあちこちから知識をかき集めることなく、**古文書や遺構と格闘することで過去の社会と直接向きあったり、現在の地域の中に過去の痕跡が残されていないが、懸命に探しながら歩いたりすること**だと思います。合同調査は、そうした営為を多くの人と協同しながら経験できる最良の場だと言えるでしょう。いつか、みなさんと一緒に調査する日が来ることを、心から楽しみにしています！

（後期博士課程二年 齊藤絃子）



↑ 2008 年度調査最終日、全体報告会の様子（池田下町中村公民館）

大阪市立大学と和泉市との包括連携に関する協定書

(目的)

第1条 この協定は、大阪市立大学と和泉市（以下「両者」という。）が知的・人的資源の交流や歴史・文化資源の活用など包括的な連携協力のもとに教育、まちづくり、産業、医療等の分野で相互に連携協力し、活力ある地域社会の創造、人材育成及び両者の発展に寄与することを目的とする。

(連携協力項目)

第2条 本協定による連携協力項目はつぎのとおりとする。

- (1) 教育・文化・スポーツの振興に関すること
- (2) 産学官連携及びまちづくりに関すること
- (3) 健康・福祉及び医療の充実に関すること
- (4) 国際交流の推進に関すること
- (5) 自然・環境対策に関すること
- (6) その他、両者が必要と認めること

(連絡調整窓口)

第3条 前条に定める項目を円滑かつ効果的に進めるために、両者に連絡調整の窓口を設置する。

(経費)

第4条 第2条に定める項目の実施に要する経費は、原則として、両者の協議により決定する。

(期間)

第5条 本協定期間は、3年間とする。ただし、期間満了の日の3ヶ月前までに、両者のいずれからも協定の終了または見直し等の申し出がない場合には、さらに3年間更新するものとし、以後も同様の取扱いとする。

(その他)

第6条 この協定書に定めるもののほか、連携協力の細目その他必要な事項については、両者が別途協議して定めるものとする。

本協定締結の証として、本書を2通作成し、署名捺印の上、各々一通を保有する。

平成21年4月14日

大阪市立大学

学長 金 見 暁 嗣

和泉市

市長 井 坂 善 行